

大雪災害の記録

高島市は冬の寒さが厳しく降雪量の多い地域で、積雪が日常生活に大きな支障をもたらすこともあります。今回は昭和50年代に発生した大雪とその被害について、当時の新聞記事や広報誌をもとに今津地域の事例を紹介します。



伊井集落内のような

20年ぶりの大雪 —五六豪雪—

昭和56年は、日本海側を中心に記録的な大雪となり、さまざまな被害をもたらしたことから「五六豪雪」と呼ばれています。

高島郡では、年末から断続的に降り続いた雪によって、平野部で1m、山間部では2mを超える積雪となりました。このことから、今津町では1月13日に豪雪対策本部を設置し、災害発生の防止や生活道路の確保など、住民生活の安全のための対策がとられました。

しかし21日夜、降り積もった雪の重みにより、今津勤労者体育センターの屋根が崩れ、倒壊しました。幸いにも、出勤していた職員や利用者は、屋根の異変にいち早く気づいて避難をしていたため、怪我人はいませんでした。これを受け、翌日から建設業者による大型施設の除雪が実施され、小中学校には町職員や保護者等、総勢700人が集まり、屋根雪下ろしや校舎の除雪作業が行われました。

さらに、年明け2月にかけて積雪1mを超える大雪が降り、山間部では倒木が相次ぐなど、農作物や山林被害額は約2億円に及ぶと言われています。

保坂地区で積雪4m —五九豪雪—

甚大な被害をもたらした五六豪雪のわずか3年後の昭和59年にも全国的に大雪となったことから「五九豪雪」と呼ばれています。この年は、普段あまり雪の降らない地域でも積雪がみられたことから、交通機関を始め広範囲に影響が及びました。

今津町では平野部で1・3mの積雪があり、建物の倒壊や農作物への被害が問題となりました。また、保坂地区では五六豪雪の最高積雪量を大きく上回る4mもの積雪を記録し、地域内37戸の民家が雪で完全に埋もれてしまうこととなり、降り続ける雪に除雪が追いつかず、住民は玄関前の雪の壁を乗り越えて道へ出て、終日除雪作業に追われたそうです。市では、こうした数々の経験から、除雪車や消雪装置の整備を促



屋根で除雪作業（現：高島市民会館）

進するなど、雪寒対策の強化を図っています。
文化財課 (25)8559

編集感

新成人の皆さん、ご成人おめでとうございます。今月号では特集として成人式を取材しています。

私にとって4度目の現場でしたが、何度行っても活気にあふれ、皆さんを見ているだけで元気をもらえるような場ですね。式中の真剣な横顔や友人たちとの再会を喜ぶ笑顔など、たくさんの写真を組んでいますのでぜひご覧ください。(M)



広報たかしま

令和4年

2

月号 No.265

発行▼高島市

編集▼政策部企画広報課
滋賀県高島市新旭町北畑5の5番地

☎0740(25)8000(代)
http://www.city.takashima.lg.jp
t:info@city.takashima.lg.jp